

六甲カトリック教会 教会報



貧しい人びとのために

主任司祭 英 隆一朗

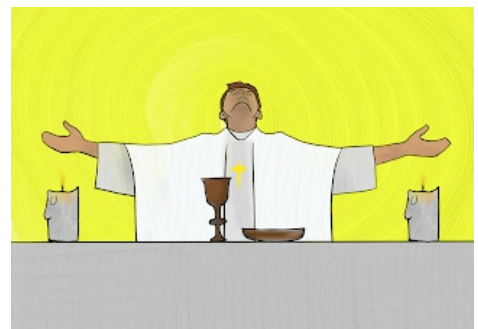
寒さが厳しいですが、いかがお過ごしでしょうか。六甲おろしはかなりこたえますね。久しぶりの六甲は寒いです。無事クリスマスと新年を過ごし、新しい気持ちで歩んでいきましょう。

引き続き、UAPs（イエズス会全体の使徒職の方向性）について解説します。一つの柱は「和解と正義のミッションにおいて、貧しい人びと、世界から排除された人びと、人間としての尊厳が侵害された人びととともに歩むこと」です。このような側面は、大阪教区の新生計画「谷間に置かれた人びとの心を生きる教会」に重なりますし、六甲教会の祈りにも表れている精神です。

この教会では、社会活動部や有志によるさまざまな支援活動があり、非常によいことだと思っています。例えば、カトリック社会活動神戸センターと連動しながらの援助活動はとても有意義です。あるいは、教会活動としてではなくとも、個人レベルで社会的に意味のある活動に携わっている方もおられるでしょう。社会の片隅で苦しんでいる人びとに関心をもち、自分たちができる援助をしていくことは、教会活動の核心だと思います。一人ひとりができることをこれからも果たしていきましょう。

取り組みの一つとして、困窮しているところに献金して、後方支援していくことも大事にしていきたいです。皆さまから「愛の献金」を集めており、今まで細かな支援に使ってきました。さらに、日本の内外や世界で苦しんでいる人びとのために弾力的に活用していきたいです。特に、今年度はウクライナで戦争が起こり、世界中の人びとが心を痛めています。イエズス会では、JRS（Jesuit Refugee Service、イエズス会難民サービス）という国際NGOが以前からずっと活動をしてきました。今回のウクライナ戦争でも、すぐにウクライナ難民支援の活動を始めました。日本管区ではJRSへの募金専用口座を開設しており、そこにまとまった額の献金をする予定です。また、昨年8月の平和旬間にはビスカルド篤子さんより、大阪シナピスがアフガニスタン難民の世話をしている話を聞きました。その後、個人的にも相談を受けています。日本国内では難民に対する支援体制が不十分のために大きな困難に直面しておられます。そこにも援助するつもりです。またこれからも世界的気候変動による自然災害、どこかで起こる紛争の犠牲者が毎年のように出てくるでしょう。「愛の献金」と「秋のチャリティーバザー」の献金先はその年に緊急性のあるところを中心に支援していきたいと考えています。

また、東ティモールでは、イエズス会の浦神父が貧困地域の中で、聖イグナチオ学院という学校を立ち上げて教育活動を続けています。今まで、教会の有志の方々に主に奨



学術援助をお願いしてきました。貧困家庭の生徒（約 30 名くらい）の奨学金支援、日本の大学に留学している学生への生活支援、そして、日本の質のよい文房具を寄贈してきました。意義のある活動であり、教育援助は時間がかかるので、継続性が必要です。これからのことを考えて、六甲教会の全信徒からの寄付を呼びかけることにしました。寄付内容について、来月号で浦神父からの「経緯と支援のお願い」の手紙を載せる予定です。

そのような支援のため、献金の仕方も変更します。「維持献金」については今までどおりです。その他の献金は、「自由献金」として、意向を細分化することにしました。①愛の献金、②東ティモールへの献金、③一粒会への献金（従来どおり、教区司祭の育成のためです）、④その他の献金（自由な意向で）と 4 つに分けて、選択肢を増やすことにしました。郵便振替の用紙はそのような形に変更します。従来の献金袋もいずれ変更する予定です。現在の「一粒会献金」の袋の方に、手書きで「愛の献金」や「東ティモール献金」に変更や付け加えがあれば、そのように扱います。

聖堂前には、従来は「愛の献金」箱がありましたが、これはより自由に献金できるように「献金箱」としました。そこに献金する際、自由献金用の封筒を置いておきますので、その袋で投入してもらえれば、その意向のために活用します。なお、この献金箱は季節によって、特定献金箱にします（例えば、9月の「いのちを守る献金」や四旬節の「特別献金」など）。献金に特定の意向がない場合は、一般献金として扱いますので、ご了承ください。

維持献金の方は、納入金額が年々少しずつ下がっています（信徒の高齢化や物価高騰が原因でしょう）。最近は大規模修繕が続いており（この 10 年間ほどメンテナンスをしていなかった“つけ”が回ってきました）、出費がかさんでいます。今まで献金を納める習慣がなかった方々は、無理のない範囲で献金を納めてくださるとありがたいです。皆さまの献金が神の国のために有益な形で生かされるように心がけていきますので、どうぞよろしくお願ひします。

教会ホームページ リニューアル

☞教会のホームページが新しくなりました。カラフルでワイド。ニティン神学生が尽力してくれました。是非一度ご覧になって下さい。パソコン、スマホがあれば簡単にアクセスできます。「六甲カトリック教会」と入力、クリックします。出来たばかりですので、コンテンツはまだこれから増えてゆきます。例えば、イエズス会 4 教会とのリンクを張るなど。更新を盛んにしてビビッドなページにするつもりです。開かれた教会、受け入れる教会をめざし、ますます充実したネット画面になるよう努力致します。教会への窓口としてのホームページの役割は大切です。

ところで、オープンスペースの活用はその後どうなっているのでしょうか。2 階の図書室や 1 階信徒会館ロビーの利用促進のためには、何か魅力ある工夫が必要です。みなさまのアイデアを期待しています。春に向かっていろいろのものが胎動し始めます。青年会も復活した様子です。若い人には大いに期待しています。（広報部）

緊急募集：ホームページ担当者

私たち、教会の SNS ワーキンググループと一緒に教会からの発信を担っていただけませんか？
教会を訪れた事のない、より多くの方に教会のことを知ってもらおうと、ワーキングチームができ、ホームページや各種 SNS での発信を行っています。特に、新しくなったホームページをアップデートしてくださる方を探しています。現在ホームページはワードプレスで作成していますので、このソフトの知識があることが条件です。やってみようと思われる方、もう少し詳しく聞いてみようと思う方は、教会事務所までご連絡ください！

《 新成人祝福式 》



1月8日主の公現の日、11時のミサで新成人の祝福式が行われました。六甲教会で成人を迎えるのは12人。そのうちの5人が祝福式に与ることができました(写真)。このとき読まれた福音はマタイ2:1-12、東方の三博士が星に導かれてイエスさまの誕生を祝いにベツレヘムの馬小屋を訪ねる、あの場面です。英主任司祭は新成人に送る言葉として、東方の3博士のことを参考にしてもらいたいとしてお説教をはじめられました。

3博士は東方で見たメシア(=イエスさま)の誕生の印である星を目指してベツレヘムにやってきましたが、私たちの人生もいわば星に導かれるようなもの。特に二十歳を迎える皆さんは、「星を見つけること」そして、「みつけたら、その星に向かって歩むこと」が大切だとされました。しかし、星を見つけても万事うまくいくかどうかはわかりません。東方の3博士は星のない昼間、うっかり道はずれてヘロデ王の宮殿に行つてメシア誕生を漏らしてしまうという大失敗をして、マリアとヨセフは生まれたばかりのイエス様と三人でエジプトに逃れる羽目となりました。同じように私たちの人生には失敗がつきものですが、英神父は、その時は軌道修正をすればいいのだとされました。これから出会う仕事が簡単ということはないし、結婚生活が楽ということもないけれども、こどもと違って、与えることが役目となる大人として、自分の持っているもの、自分の時間、自分のエネルギーや苦勞を捧げることは、三博士の黄金・乳香、没薬の贈り物が、ヘロデに追われるイエス様の一行の生活を支えることができたように、きっと誰かの役に立つ、それを喜びとしましょう・・・を新成人に送る言葉とされました。



新成人のことば

先日、成人式を迎えることができました。

幼い頃からお世話になっている方々より、お祝いしていただき非常に心嬉しい限りでした。神父様がおっしゃっていたように、自分の星を見つけて人の役に立つような人になることを目指したいと思います。これからは自分が教会でたくさんの人に与えられたように人に与えられるようになりたいです。

最後に茶話会を開いていただき交流の場を設けてくださいました神父様、教会関係者の皆様ありがとうございました。とても楽しい一時を過ごすことができました。

今後ともよろしくお願い致します。

小田 康平



《 新年会 》

1月8日の11時のミサ後にはイグナチオホールで茶話会形式により新年会が開かれました。(担当地区は、灘北1, 北・三田)。会のはじめに英主任司祭は、昨年4月に六甲教会に赴任して以来、初めてのパーティーだと笑顔で挨拶をされました。新年会には約120人の参加者があり、最初に新成人5人それぞれから抱負が聞かれ、続いて2020年以降の新受洗者と転入者の皆さんの紹介が行われました。久しぶりの集まりで懐かしい顔と顔を合わせたみなさんはやや興奮気味で、登壇者の声が聞き取れない一幕もありました。



その後、小教区評議会・宗行孝之介議長が登壇し、六甲教会に籍のある信徒数は1,700名に上ることを報告、共同体としての交わりを深めていけるようにと呼びかけました。最後に地区会の井川直哉代表がマイクをとり、新年会のような行事は各地区が運営を担っていること、そして2か月に1回程度の当番がある教会清掃奉仕にも触れ、「みんなできれいな教会にしましょう」と締め括りました。

(写真は、参加された受洗者と転入者のみなさん)

コロナ禍の中での受洗

私の受洗式は2020年7月11日でした。世の中ではコロナウイルス感染拡大の問題が連日のように取り上げられていた時期です。受洗のお誘いを教会から思いがけず早くいただいたので、戸惑いもありましたがエイッとばかりお誘いに従うことにしました。教会には2~3年、勉強会にも1年を超え参加をさせて頂いていましたので、受洗のための下地はできていると不遜にも思っていました。そして受洗した私はどうなったのでしょうか。そこには信仰心が少しも深まっていない以前の自分がいるだけでした。

そしてそれからすでに2年半の時が過ぎ去りました。その間、私は何をしてきたのかと尋ねられれば、返答に窮するのが現実です。この怠惰な性格はなかなか変えるのが大変ですが、六甲共同体の一員となった以上、少しでも皆さんに近づくよう信仰を深める生活を密かに送るつもりです。

それでは、六甲共同体の一員として、どうぞよろしく願いいたします。

アウグスティヌス 高山 清

教会掃除『土曜班』 2023年度(4月~'24年3月)募集

~少人数の金曜当番掃除の翌日、残りの箇所の清掃をカバーするための土曜班です~
土曜班(10時~:参加者の都合により時間変更可能)を募集しています。

2か月に一回程度の当番になります。

参加して下さる方は、教会事務所にお申し出下さい。

(地区会)

教会清掃について議長団・地区会で緊急会議 議事録（要約）

日時 2022年12月29日（木）13:00～16:00

場所 第4会議室

出席者：英主任司祭、小教区評議会議長団：宗行議長、堤副議長、三垣副議長、大上書記

地区会：井川地区会代表、東灘北1：尾崎地区長、灘南：國賀副地区長

12月11日開催の第4回小教区協議会にて教会清掃についての議論がなされ、『早急に議長団と地区会の話し合いを持つ』という決議がなされました。これを受けて表記の会議が持たれ、概要は以下の通りですが、事態の緊急性にかんがみ、これらの施策については早急に試行したく、関係役員および司祭の了解も得られたことから、（試行については）次回の地区会、小教区評議会での決議を待たずに実施し、その結果を夫々報告し、修正を加えてゆきたいと思っておりますので、趣旨ご理解の上、ご諒解ください。

討議結果

2023年度の1年間を新たな掃除体制及び方法を試すため次のことを決定した。

1. 日曜班の掃除当番日には11時ミサ後に掃除協力依頼のアナウンスを行う。
（信徒の皆さんに掃除に対する意識を持ってもらう）
2. 参加人数の少ない灘南・神戸西と東灘北1の金曜日掃除翌日に掃除する土曜班を募集する。（上記2地区が少人数で掃除できなかった箇所をカバーしてもらう「引継ぎノート」を活用する）
3. シナピス大阪に掃除外注を2023年度4月から依頼する。2か月ごと年6回偶数月とする。
4. 少人数のため、時間内に掃除できなかった箇所を次の班に実施して頂く為に、「引継ぎノート」を作成することにする。
5. 掃除道具（扱いやすい用具を揃える）の買い替えを提案してもらう。
6. 3月に配布する新年度掃除当番表には、土曜班、シナピス大阪等のスケジュールを入れておく。
7. 各班が掃除後に茶話会をもてるよう、お茶菓子代20,000円を地区会2023年度予算に計上する。
8. 洗礼者、転入者の方に「受洗者・転入者への説明会」などの機会をみて掃除等協力をお願いする。

以上

掃除用具に関するご提案を募集します。

教会の清掃当番になかなか人が集まらないことを受けて上記の通り、年末に緊急会議を開いて討議をした結果の一つとして、扱いやすい掃除用具について皆さまからご提案いただきたいということになりました。「幅の広いモップ」とか「こういう洗剤がよい」など、なんでも結構です。地区長、ブロック長、あるいは教会事務までお知らせください。

《2, 3月の掃除当番表》



2月3日（金）	東灘南	3月3日（金）	灘北2・阪神
2月10日（金）	東灘北2・芦屋	3月10日（金）	灘南・神戸西
2月12日（日）	日曜班	3月17日（金）	灘西・中央
2月24日（金）	灘北1・北・三田	3月27日（月）	定期清掃

◎掃除当番の地区と日にちは11月から変更になっています。

《 鐘楼と十字架の修復工事 》 施設管理部

1. 修復工事の経緯

2021年03月06日	強風（春一番）による十字架の損傷を確認
2021年03月10日	応急処置；十字架をワイヤーで塔に固定
2022年09月05日	修復工事の契約（発注）
2022年09月20日	台風14号による十字架の損傷を確認
2022年09月28日	応急処置；前回同様の補強・ワイヤーにて再固定
2022年10月14日	修復工事の着手（開始） ➢十字架；撤去・製作・設置 ➢外壁；経年劣化調査・樹脂充填・塗装 ➢避雷針；改修 ➢屋根；銅板の塗装剥離と補修
2022年12月06日	修復工事の竣工（完了）



2. 十字架の損傷原因

破損した十字架は木製の芯材に銅板を貼り付けた構造で、芯材を塔の屋根に差込んで固定していました。1956年の構築以来長期に亘り風雨に曝された芯材は腐朽が進み、特に風圧の影響が大きく変形が著しい球体の上下端は芯材の耐力が無い状態になっていました。辛うじて風圧に耐えていた銅板の春一番による剥離が破損の原因であり、台風14号による損傷は応急に補強していたワイヤーの剥落が原因と考えられます。

3. 損傷の応急処置

何れの損傷も強風により十字架の下端部が折れ曲がり大きく傾く破損でした。放置すれば十字架の落下による第三者への加害が懸念されるため、直ちに応急の処置をしました。ただ二度目の処置は修復工事開始の直前であり、約2週間に不測の事態がなければ応急処置が不要と想定される中で、神父様にはリスク回避を優先した勇気ある決断をして戴きました。

4. 新十字架の構造と強度

新しい十字架は既存の十字架と同じ形状にすることを原則とし、ステンレス板で成形した芯材に銅板を巻き付ける構造にし、芯材はボルトにて鉄筋コンクリートの屋根に固定しました（写真-1参照）。芯材は風速100m/sの風圧にも耐える強度を備え、球体は銅板の「へら絞り」で製作して美観と耐久性の向上を図りました（写真-2参照）。



写真-1.芯材の固定状況



写真-2.新しい十字架

5. 外壁の改修

外壁の塗装は劣化が進行し白亜化現象が発生していました。

当初は壁面の再塗装のみの計画でしたが、劣化調査の結果極めて多数のモルタルの浮きが確認されました。放置すれば劣化進行によりひび割れや剥離の原因になるため、空隙部への樹脂注入を工事追加しました。

6. 銅板屋根の改修

鉄筋コンクリート屋根の重ね葺き銅板は塗装されていましたが、銅板の材料特性を活かすため塗装を剥離して十字架との調和と整合を図りました。時間の経過と共に表面に緑青が形成され、耐久性を増すとともに趣深い情景が醸し出されます（写真上参照）。

7. 避雷針の改修

既存の避雷針の性能を低下させることなく、景観に配慮した突針のない形式を採用しました。

8. 終わりに

工事中、信徒の皆様にはご不便を掛けました。また、十字架が損傷する度に近隣や通行の方々から多数の情報や懸念の言葉が寄せられました。ご理解とご協力に感謝を申し上げます。新装された鐘楼と十字架が六甲の洗練された景観や風土になることを願っています。

社会活動部ボランティアグループ紹介（3）ともしび会

ともしび会では、2か所の児童養護施設の子どもたちにお誕生日会のケーキを作って届ける活動を行っています。奇数月は愛神愛隣舎さんへ4台、偶数月は信愛学園さんへ6台、クリスマスには、双方へ計10台。現在会のメンバーは、信者、未信者半々ずつで合わせて10名前後で、材料費はメンバーで負担しています。立ち上げたのは平成2年、最初は私の自宅で友人2人と行っていましたが、2～3年で仲間が増え現在のよう状況になりました。神戸の大震災後、オマリー神父様のお勧めで、職場を自宅から六甲教会の台所に移させていただき、現在に至っています。メンバーの大半は何らかのパート勤務を持つ主婦ですが、



（写真はクリスマスに持っていったケーキ）

“出せる時に、出せる力を”をモットーに続けてきました。特筆すべきは、ケーキを作りながらお互いに、主婦として知っている良い情報を交換し合い、私たち皆にとって“主婦の知恵の宝庫”の場にもなっています。メンバーの多くが高齢者になった今、私たちが切に願うのは、家庭にとっても社会にとっても貴重なこの知恵の数々を若い人達にも継承していった貰いたい、という事です。後10年ぐらひは私たちが会を支えていくことができるかもしれませんが、お若い方々のみなさん、ぜひケーキを作りながら、楽しい私たちの会に入られませんか。もちろん、熟年世代のかたも、大歓迎です。 小坂田 さち子

今月の聖人 聖パウロ三木、ヨハネ五島、ヤコブ喜齊

この三人は、日本26殉教者のなかのイエズス会会員です。

最初はキリスト教の宣教を大目に見ていた秀吉は、イエズス会の艦隊を引き連れての宣教活動やサン・フェリペ号事件（註）などを経て警戒心を抱くようになり、一挙にキリシタン弾圧に転じました。当時の日本では200人近くの司祭・修道士が居り、うち日本人修道士が70人ほど、信者数は15万人いたと言われます。現代の日本と比べて



人口比にすれば大きな数字です。このままでは日本国がイエズス会ひいてはスペインに乗っ取られるのではないかと危惧を抱いた秀吉の政策が、こどもも含めた大量の殉教者を出した26聖人の事件（1597年2月5日）を引き起こした背景にあります。上記の3人は罪のない純朴な信徒でしたが、折しもの秀吉の禁教政策の犠牲になったと言えます。

【註】 土佐に漂着したサン・フェリペ号の積み荷を奉行が没収、反発した船の乗組員が発した「スペインはやがてこの国を征服する」という言質に秀吉は激昂、弾圧を加えたといわれる事件。（写真は26聖人記念碑の一部、上記3人の特定はしていません）

（詫 洋一記）

《 第 28 回越年越冬の炊き出し 》

阪神淡路大震災の年から始まった越年越冬の炊き出しは今回も昨年末の12月28日～1月4日まで東遊園地（神戸市役所南端）で行われ、そのうち、カトリック社会活動神戸センターの当番日は、以下の2日で、こんな感じでした。元日は、141名のおじさんたち、33名のボランティアさんが参加されました。

以下、参加者の声です。



▲並ぶ人たちの長い行列



▲お手伝いのこどもとニティンさん。大鍋に奮闘！

★ 12月29日（木）メニュー カレー

この日のメニューは、野菜たっぷりのチキンカレー。六甲教会からは、神学生ニティンさん、いつもの有志の方々、そして、教会学校の生徒さんやお母さん、とたくさんの方が参加してくださいました。カレーの出来上がる頃には、すでに長蛇の列ができていました。カレーは、一番人気のメニューです。越年越冬炊き出しでは、ランチメニューだけでなく、カイロやみかん、カップヌードルなど、様々な“お土産”も配ります。会場には、無料のコーヒーコーナーも用意されています。調味料は、大雑把に入れたにもかかわらず、大鍋で作り、屋外で食べるカレーは、なぜ、こんなに美味しいのでしょうか！！

少しでも興味をもってくださった方、来シーズンは、ぜひ、のぞいてみてください。初めての方も大歓迎です！六甲教会社会活動部では、8月、11月、祝日を除き、毎月第二土曜日に炊き出しを行っています。（三垣恭子）



▲お鍋の底までしっかり掻き出し！

★ 元旦（日）メニュー 雑煮とおにぎり

1月1日、社会活動部の方にお声かけ頂き、東遊園地での炊き出しに初めて参加しました。野菜を切り始めた頃から順番を待つ人たちが少しずつ集まり始め、12時半には予想を超えた大勢の方が並んでおられたので驚きでした。お雑煮とおにぎりを配りました。



普段、買い物や習い事で三宮に来ています。その時には想像もつかない現実でした。日々せかせかと追われている私ですが、今回、立ち止まる時間になりました。ありがとうございます。また参加したいです。（近藤絵美）

◀おいそうないろどりのお雑煮に仕上がりました。

◆ 社会活動部 今月の予定

2月 1日（水）10時～ 手芸の集い 第1、第2会議室

2月 24日（金）9時半～ ともしび会（児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り）
教会台所 10時～

（注）毎月第二土曜日に行う炊き出しは、今月は祝日のためお休みです。

ニティンさんの日記から

神学生ニティンさんの滞在も3月まで。2、3月は異動に向けての準備に忙しいようです。フリーエッセイ第2回です。

②心のカイロ



私は子供のころから旅行が大好きです。日本へ来ていろいろな観光地へ行きました。本当に楽しくてよかったです。それでも日本の冬はどこにも行きたくなくなります。日本の冬は私にとって、とても寒いですから暖かい家から出かけたくないのです。その時助けられたのはカイロです。カイロのおかげで冬の観光地を楽しむことができました。

最近コロナのせいで自分と愛する人たちのことばかり考えて、他の人についてこころを配ることが少なくなったかも知りません。しかし、最近炊出し*^{*}に行き行って久しぶりに心が温かくなりました。ほかの人たちのためにいっしょにテントを立てるとか、料理を作るとかは楽しくていい気持ちです。それよりも同じ年の子供たちと遊ばないで、ほかの人たちのために手伝いに来た男の子のやさしさを見て、心がもっと温かくなりました。

時々心が冷たくなったと思ったら、ほかの人を手伝うことや、手伝うことができないとき祈るのは心のカイロだと思います。冬の時使うカイロがいろいろあるみたいに心のカイロもいろいろあるのかも知りません。あなたたちの心のカイロは何ですか。

(※編集部注：社会活動神戸センターの越冬冬の炊き出しのこと。ニティンさんは12月29日の炊き出しに参加してカレーを作りました。)



1月25日未明から猛烈寒波が来て神戸市内でも大雪となりました。神学生ニティンさんが当日朝の写真と感想を寄せてくださいました。

『子どものころ、映画で雪を見てすごく幻想的だと思いました。インドでは雪を見たことがないからだと思います。最近、六甲で雪が降っていて楽しかったです。本当にクリスマスの時に映画で見るような雰囲気でした。でも、雪が降るとたまらないほど寒いです。それだけじゃなくて、次の日教会の前を通る人々が滑って転ぶのを見て、雪が降らないほうが良いと思いました。

それで、雪が好きですけど外に出て雪だるまを作りたくないです。これは今の感想なので、将来に変わるかもしれません。』

私の好きな聖書の言葉 千原 裕



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」
(ヨハネによる福音書 15：5)

枝は幹や根から栄養をもらわなければ、生きることが出来ません。

しかし、ただ生きているだけでは「豊かな実を結ぶ」ことはできません。

心を豊かに意味ある人生を送るには、心のよりどころが必要です。そのためにはイエス様としっかり繋がっていなければならないと感じられるのがこの言葉です。

《図書室からのお知らせ》 2022年12月に入った図書

☆ ちいさな ひつじかいの たいせつなよる えさき ちか作・絵 ドンボスコ社

ベツレヘムでくらす ちいさなこどもの ひつじかいが うたをうたっていると・・・

とてもあたたかく、かわいい絵本です。

☆ 星をみつめて エツァルト・シャーパー著 訳:阿部祐子 女子パウロ会

キリストの誕生を告げる星を追って、小さな王は祖国を飛び立った。すべての贈り物を苦しむ人々に差し出し、長い年月を費やして、たどりついたのはエルサレム・・・

戦時中 ナチス・ドイツとソビエト連邦から死刑を宣告され、亡命先で強制送還の危機に陥った著者の壮絶な体験に根差した物語 (本のオビから)

☆ 日々を生きる力 あなたを励ます聖書の言葉 366 片柳弘史著 教文館

2000年の時を超え あなたに届く 人生のエール

祈るとは、何があっても 決してあきらめないということ。最後まで希望を持ち続けるということ。

・2冊の**聖書**が入りました。「禁持出し」としておりますが、必要に応じて 大切にご利用ください。

☆ 中型引照付き聖書 旧約続編つき—新共同訳— 日本聖書協会 2012年

☆ 聖書 聖書協会共同訳 旧約続編付き 引照・注付き 日本聖書協会 2018年

引照付き＝聖書のどの個所と関連があるかを示しています。神の言葉の深く立体的な理解の手掛りになります。なお、聖書協会共同訳は最新の日本語訳ですが、現在カトリック教会の典礼では用いられてはおりません。

《お願い》

※ 教会に図書を寄付・寄贈される方は、信者や教会図書室利用者に、その図書の推薦文や、教会図書室に相応しい旨のアピールを添えて事務所に申し出ください。

※ お気付きのこと、希望の図書等ご遠慮なくお知らせ下さい。メモにお書きいただき、**図書室のご意見箱**にお入れ下さるか、**事務室**におあずけ下さるよう、お願いいたします。

※ 図書室は今、オープンスペースとしても利用されています。図書のご利用等は従来通りです。

教会のご近所訪問 六甲ケーブル



教会の前のバス道を登っていくと六甲ケーブルにたどり着きます。

このケーブルは故障のため今年の10月2日から運休していましたが12月30日に開通、営業再開となりました。恒例の元旦早朝ダイヤは組まれなかったようですが、毎時20分置きに発車し、新年の登山、観光客の要望には応えることが出来たようです。六甲ケーブルは昭和7年(1932年)の開業ですので、ことしで91年になるのですね。ケーブル下駅(写真)から六甲山上駅まで約10分。山

上駅の付近には目立つものもなく、しばらくどちらかに歩かなければ牧場、高山植物園、カントリーハウスなどには行けません。時が止まったような山上の駅舎。ひたむきに登っていくケーブルカーには頑張れと言いたくなります。いまは寒いけれどケーブルで山上に上がって静かな下界を俯瞰するのも一興です。

六甲春秋 日々、好日なり。

我ながら驚き入った。冬休みを頂き広島
の庚午センターに留まり、なかなか聞けな
い副院長の苦勞談なども聞いた。また遠出
をして防府教会に旧知の神父を訪れた、駅
前がすっかり開けてマゴマゴし到着がかな
り遅れたが。次の日には、買い物に付き合
ったりしたが、最終日は祇園教会を訪問し
た。駅前が再開発中で、随分とムダ足を踏
んでやっとたどり着いた。主任司祭は実に
多忙な人で、多くの人々と立ち交じりなが
らテキパキ職務をこなし、帰途にはわざわざ
庚午センターまで送ってくれた。しかし
ながら悪い風邪をひき込んだのか、それ以
来すっかり寝込んでしまった。コロナの検
査キットは陰性ではあったが、ゴロゴロ横
になってラジオの番をしていた。こうして
帝京大と早稲田大のラグビー決勝戦や大相
撲の実況を聞いていたが、テレビの映像に
慣れ親しんでいたためか、いくら注意して
耳を傾けても実像が思い浮かばないままだ
った。

1月17日は、阪神淡路大震災の忘れら
れない日である。それぞれの体験・記憶・
見聞として心に焼き付けられているのでは
ないか。当時は上智の神学部で教えていた
ので、三日後に大慌てで新幹線に飛び乗り
故郷の神戸に向かった。西宮までは順調で
何だか拍子抜けするほどだったけれども、
しかし阪急神戸線は寸断されて、或る区間
は線路上をこわごわ歩いて御影駅に向かっ
た。第二次世界大戦の終戦間際のドサクサ
や破壊ぶりを子供心に見たが、まったく異
なる光景に驚いた。いわゆるお屋敷地区

(夙川・芦屋・岡本)を通
ったが、大きな邸宅がつぶ
れひっくり返っていた。ま
だ煙を上げてくすぶってい
るもの、きな臭い臭いが立
ち込めているものなど、ま
さに戦場そのものの状況であった。鴨子ヶ
原の実家は、損壊の跡があちこちにあっ
たが、何とか全員無事で胸をなでおろした。
しかしガスや電気や水道はストップで復旧
のメドはなく、おまけにひっきりなしに大
小の余震が見舞い、気が休まらなかった。
街に出かけると信じられない損壊の光景を
前にただ息を呑むばかり。生田神社の拝殿
が地に落ち、屈していた光景が今も眼に鮮
やかに残っている。

今年もまた、震災後28年を祈念して各
種の慰霊や催しが行われた。しかし私自身
は以来、「万全を期す」という言葉に不信
感を持っている。たしかに事前の備えや連
携や避難路の確保など相応の準備は欠かせ
ないが、人間そのものの非力・無力さを決
して忘れてはならない。南海トラフの大地
震を声高に叫び、予知や予報に奔走する
人々がいるが、地震到来を前もって学問的
に予測する事は不可能である。地震が来て
からは、地殻の変動や落込みについて説明
はできるが、先立っての解明は出来ない。
「主よ、どうか御顔の光を私たちの上に照
らしてください。私たちは安らかに伏し、
また眠ります。主よ、私たちを安らかに
おらせてくださるのは、ただあなただけで
す」。

中村健三 合掌



■お知らせ■

- ・『趣味百景』はお休みしました。
- ・昨年10月号でコーラス部の発足をお知らせしたところ、今では35名余の参加があります。2月の練習日は19日（日曜日）12時半から。1か月の会費は300円です。

【2023年2月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
				主の奉献	初金曜日ミサ 7時、10時 聖体顕示10時 ミサ後 福者ユスト高 山右近殉教者 ◎東灘南	
5	6	7	8	9	10	11
年間第5主日 小教区評議会 日本26聖人殉 教者					◎東灘北2・ 芦屋	世界病者の日 ミサ 7時、10時
12	13	14	15	16	17	18
年間第6主日 地区役員会 ◎日曜班						聖母の土曜日
19	20	21	22	23	24	25
年間第7主日			灰の水曜日		◎灘北1、北・ 三田	
26	27	28				
四旬節第1主日						

◎は掃除当番地区

編集後記

□このところお知らせする大切な事項が増えて、毎号12頁近い仕上がりとなっておりますが、皆様の知りたい内容になっているでしょうか。ご意見をお寄せいただきますよう、お願いします。

<p>次回3月号の発行は2月25日（土）です。原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。（広報部）</p> <p>Eメール renraku@rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電話 078-851-2846</p> <p>FAX 078-851-9023</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 英隆一朗 編集 広報部</p>
---	--